

From Ibigawa S A B O

9月は例年、台風の襲来が日本各地に影響を与えておりますが、今年は台風及び同時期に降り続いた豪雨により、茨城県の鬼怒川や宮城県の大川が決壊するなど、各地で大きな被害が発生しております。越美山系砂防事務所の管内では、台風の進路が管内付近を通過したものの、大きな土砂災害の発生はありませんでした。

台風18号 管内付近を通過

台風18号は、発生から太平洋を東海地方に向けて北上し、9月9日の正午前後に岐阜市付近を通過しました。中心の気圧は996hPa、最大瞬間風速は30m/sを記録しました。同じ東海地方の浜松市では、平年の1ヶ月分に当たる380mm以上の累計雨量に達しましたが、事務所管内の雨量計では、根尾の上大須、東小鹿で累計雨量140mmの観測に留まり、この地域で大きな土砂災害は発生しませんでした。工事現場でも、施工業者の方々による事前対策の甲斐あって大きな被害は無く、工事を再開しております。



雨水で増水した根尾川

堆積土を有効活用 =根尾川流木=

本業市根尾越波(ねおおつば)地先で工事を進める根尾川流木対策工事では、平成23年9月に発生した土石流により計画を越える土砂が堆積した越波谷第3砂防堰堤の機能を回復させるため、昨年に引き続き除石工事をを行っています。

この除石工事により発生した土砂は、現在、岐阜国道事務所が進めている東海環状自動車道の盛土材料として有効活用するため、揖斐郡大野町のストックヤードまで搬出しています。施工は田中建設工業(株)が行っています。



堰堤に堆積した土砂を除石(越波谷第3砂防堰堤)

昭和40年(1965)災害 / 『奥越豪雨』 ⑫

真名川筋

福井県側の西谷村は廃村の道をたどる ③

鎌谷川の氾濫土砂は急速な土石流ではなく、高濃度に土砂を含んだ洪水流であった。土砂が堆積して流路が高くなると低い方向へ流れを変えするという現象を繰り返し、次第に土砂を堆積させていった。したがって、主流部分には流失した人家もあるが、多くの人家はそのままの形で土砂に埋まり、屋内には屋外とほぼ同じ高さまで土砂が侵入していた。

コアゾ谷から流出した土砂は真名川本川を閉塞し、小規模な天然ダムを作って上流側の水位を上昇させたが、短時間で決壊した。決壊時には左岸側数十mが侵食され、人家が流失した。上笹又集落(中島集落より1.4km下流左岸)背後の谷からも土砂が流出し、上笹又集落に被害を及ぼしたが、沖積錐上で止まり、真名川本川には流入しなかった。

被害は上笹又集落においては全40世帯のうち37世帯の家屋が、また、中島集落においては全154世帯のうち144世帯が流失・埋没した。

西谷村全272世帯中、流失79世帯、埋没102世帯、半壊3、床上浸水59戸など家屋の被害は243世帯におよんだ。また、公共施設として、道路決壊・橋梁流失67カ所、河川堤防決壊30カ所、農地流失91ha、山地崩壊31,455haにおよんだ。



上笹又集落は3.2mもの土砂で埋まった

<つづく>

全国のパドラーが揖斐の急流を操る

ぎふ清流国体でカヌー競技が開催された揖斐川町の上野で9月18日~20日に、日本カヌー界のトップクラス選手が年間を通じて競う「カヌージャパンカップ」が開催されました。2本のポールの間を通過していくスラロームと、流れの激しい川を一気に下るワイルドウォーターで競われました。



揖斐の激しい流れを巧みに下る選手

出典：越美山系災害史(原文)
発行：越美山系砂防工事事務所 平成10年10月



クマタカ通信をメール配信します。配信希望の方は下記宛に「配信希望」とメールを送信して下さい。また、クマタカ通信の感想やご意見もお待ちしております。

発行 国土交通省中部地方整備局
越美山系砂防事務所 揖斐川砂防出張所
〒501-0619 岐阜県揖斐郡揖斐川町三輪2303-3
Tel: 0585-22-3526 Fax: 0585-22-6626
E-mail: ibigawasabo@cbr.mlit.go.jp